



## 地方医師会の実情

北海道医報通信員  
宗谷医師会 監事  
さくらい整形外科医院 院長  
**櫻井晴邦**

こんにちは。最北の稚内市からです。  
市内で整形外科を開業し、宗谷医師会通信員をしております櫻井晴邦です。

ここ稚内市も数年にわたり人口減少が続いており、それ以上に個人開業医も少なくなってきました。

私が父の跡で稚内に来てから約12年。現在稚内市内の個人開業医は実質5機関の5人だけであり、ここ数年で3人減っています。そのほとんどが高齢による医院の廃業です。

市立稚内病院以外で数えると、その他の3機関5名を加えて10人です。

この人数で自分自身の外来診療以外の仕事の、介護認定審査、産業医相談、予防接種、学校検診、その他警察医や市役所関係の仕事を分担し、最近はインフルエンザ対策、それによる休日当番診療などなど。

おまけ？に医師会の役員の仕事を重複でこなしています。

これ以上の仕事は各先生方皆さん無理でしょう。

また家族は、私を含めてほとんどの先生方が札幌であり、毎週末往復の移動で時間が潰れてしまいます。1年の半分は雪と風で有名な稚内であり、移動手段も限られており、飛行機はあてにならず、JR夜行寝台列車も数年前に廃止。ちなみに車で約5時間かかるわけですが。

これ以上地方をいじめないで下さい、どこかの最近の知事みたいですが。

以上、宗谷医師会稚内市の実情です。

みなさま実感わきましたか？



## 地域ぐるみで育てられ

宗谷医師会  
道北勤医協宗谷医院  
**塩原康弘**

私は2009年4月に札幌市の病院から現在の診療所へ移動し、日本家庭医療学会認定後期研修プログラムの診療所研修をさせていただいています。医師としては5年目の駆け出しで、まだまだ力不足、知識不足は大きく、日々新たな疑問とぶつかっております。当院院長のみならず、インターネットを介した学習会などで、全道・全国の先生方に教わり、また、直接あるいは診療情報提供書を介して地域の先生方に教わりながら、なんとか今日を過ごしています。家庭医療とは「特定の個人、特定の家族、特定の地域に継続的にすべてに関わる」医療とされています。永くこの地で医療を行われている先生方には、医師会の会合の場などで、この点についても助言をいただき勉強させていただいております。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

この地に家族とともに転居し、地域に育てられるということの意味を、おぼろげながらつかめ始めました。この地域の持つ地理的な特徴や、行政サービスや店舗や娯楽施設の状況などこの地域で生活するうえでの機能的な特徴、そして、人々とのふれあいの中で教わるさまざまなことを通して、この地域での医療や生活を少しずつ考えるようになりました。漁師さんにはこの時期のおいしい魚介類を教わり、その奥さんにはおいしい料理法を教わり、酪農家には牧草の出来や枯れ草や花粉の飛び具合を教わり、地域の人にはどこの店の何がおいしいとか、どこの湧き水が体に良いと言われていたとか、そんなことを教わっています。これを医療にどう活かすのか、今はまだおぼろげですが、少なくとも私自身がこの地での生活をしていく上での楽しみを増やしてくれています。そして、そういう楽しみがあるからこそ、この地で仕事をするのもまた、楽しめるように思います。

この地で、地域の先生方、住民の方々にいろいろ教わり育てられ、まだまだ未熟ですが、少しずつ恩返しができるようになりたいと思います。